

施設園芸チーム

宮崎 豊・加藤 元保

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設農場

総括

果菜類の施設栽培生産と学生実習を担当した。礫耕温室ではトマト・ミニトマトを栽培，ミスト耕温室では自主栽培実習でミニトマトを栽培，土耕温室ではピーマン，とうがらし類に加えミニトマトを栽培した。

- (1) 礫耕温室のトマト・ミニトマトは、「夏休み子ども体験学習」に使用するジャム用のトマトを確保するため，栽培後期より側枝を伸ばして2本仕立てとした。
- (2) ミスト耕温室では例年同様コンテナボックスでの隔離ベッド式養液土耕栽培によるミニトマトの学生自主栽培実習を行った。

前期実習予定終了後の8月には小学生を対象とした「夏休み子ども体験学習」の一部として，収穫体験を実施した。

後期の実習では，収穫の一部を消費者調査実験に提供している。

- (3) 土耕温室では，ピーマン，子どもピーマン，甘長とうがらし，紫とうがらしを栽培した。また消費者調査実験の予備として，ピーマンを一部減じてミニトマトの栽培を行い，一部を提供した。

定植時は，地元中学生インターンシップ期間中につき，中学生に作業を体験させ，後日その収穫物を成果として提供した。

第1表. 温室の栽培管理状況

礫耕温室

		H29.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考	
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下		
栽培 層	トマト ミニトマト													養液礫耕栽培方式 17m×8ベット 黄化葉巻病耐病性トマト×2品種 通常トマト×3品種 単為結果性トマト×1品種 単為結果性ミニトマト×2品種 大塚ハウス肥料B, SA, SC, C処方 EC管理: 1~3月: 0.9~1.0 4~7月: 1.0~1.5 8~11月: 0.6~0.9 12月: 1.0~1.4	
	防除 層	コナジラミ類													アファーム乳剤 アニキ乳剤 アルバリン顆粒水溶液 ウララDF チェス顆粒水溶液

凡例 ☆播種 ●定植 ■収穫期 ▶散布 ☆くん煙 ▽灌注

ミスト耕温室

		H29.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考	
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下		
栽培 層	ミニトマト (地域環境デザイン 学教育コース・地球 環境システム学 教育コース) (教育学部技術科) (農林生物学教育 コース・国際開発 源学教育コース)													コンテナ使用隔離ベット式養液 土耕栽培 流量比例式液肥混入機使用点滴 灌水 大塚タンクミックスA, B使用 多木有機液肥12号, 13号	
	防除 層	トマトサビダニ コナジラミ類 うどんこ病													アファーム乳剤 アルバリン顆粒水溶液 モベントフロアブル ジーファイン水和剤

凡例 ☆播種 ○移植 ●定植 ■収穫期 ▶散布 ▽灌注

土耕温室

		H29.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考	
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下		
栽培 層	ビーマン こどもビーマン ジャンボ甘長 紫とうがらし(7月~) ミニトマト													ビーマン3ベッド こどもビーマン1ベッド ジャンボ甘長1.5ベッド 紫とうがらし0.5ベッド ミニトマト2ベッド 流量比例式液肥混入機使用点滴 灌水 多木有機液肥12号, 13号, 大塚タンクミックスA&B使用	
	防除 層	ネコブセンチュウ オオタバコガ アブラムシ類 うどんこ病 疫病 うどんこ病 (ビーマン, とうがらし類) 葉かび病 (ミニトマト)													ネマトリンエース粒剤 (とうがらし類ベッドは除く) アファーム乳剤 モベントフロアブル カリグリーン トリフミン水和剤 ライメイフロアブル ラリー水和剤

凡例 ☆播種 ○移植 ●定植 ■収穫・採取期 ▶散布 ◆全面土壌混和